

都道府県名	徳島県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	徳島市論田小学校								
学 年	1年	2年	3年	4年	5年	6年	特殊学級	計	教員数
学級数	2	2	2	2	2	2	1	13	21
児童数	57	78	70	77	78	77	2	439	

研究の概要

1. 研究主題

フロンティアテーマ  
「わかる授業」で確かな学力の向上をめざして

2. 研究内容と方法

(1) 実施学年・教科（選択した理由）

実施学年及び教科・・・全学年において算数（1～3年次）・国語（3年次）  
理由・・・・・・・・・・個人差が開きやすい教科において基礎的・基本的内容を重視し、子どもの実態に応じたのプランが研究できる。

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 基礎的・基本的な学習内容の定着をめざして</p> <p>研究の仮説 本校の子どもたちの学校生活並びに学習の実態を総合的に評価し、見直すことで、その実態や発達段階に応じた指導方法並びに指導体制等が工夫出来るのではないかと考えた。</p> <p>研究の内容・方法 『ロンデンフロンティア』組織委員会設立 アンケートによる児童の学校生活実態調査 朝の学習の見直し及び週カリキュラム作成 全学年標準学力検査の実施及び考察 先進校視察及び研究会参加 インタ-ネットによる「ろんでん通信」発行</p>
--------	---

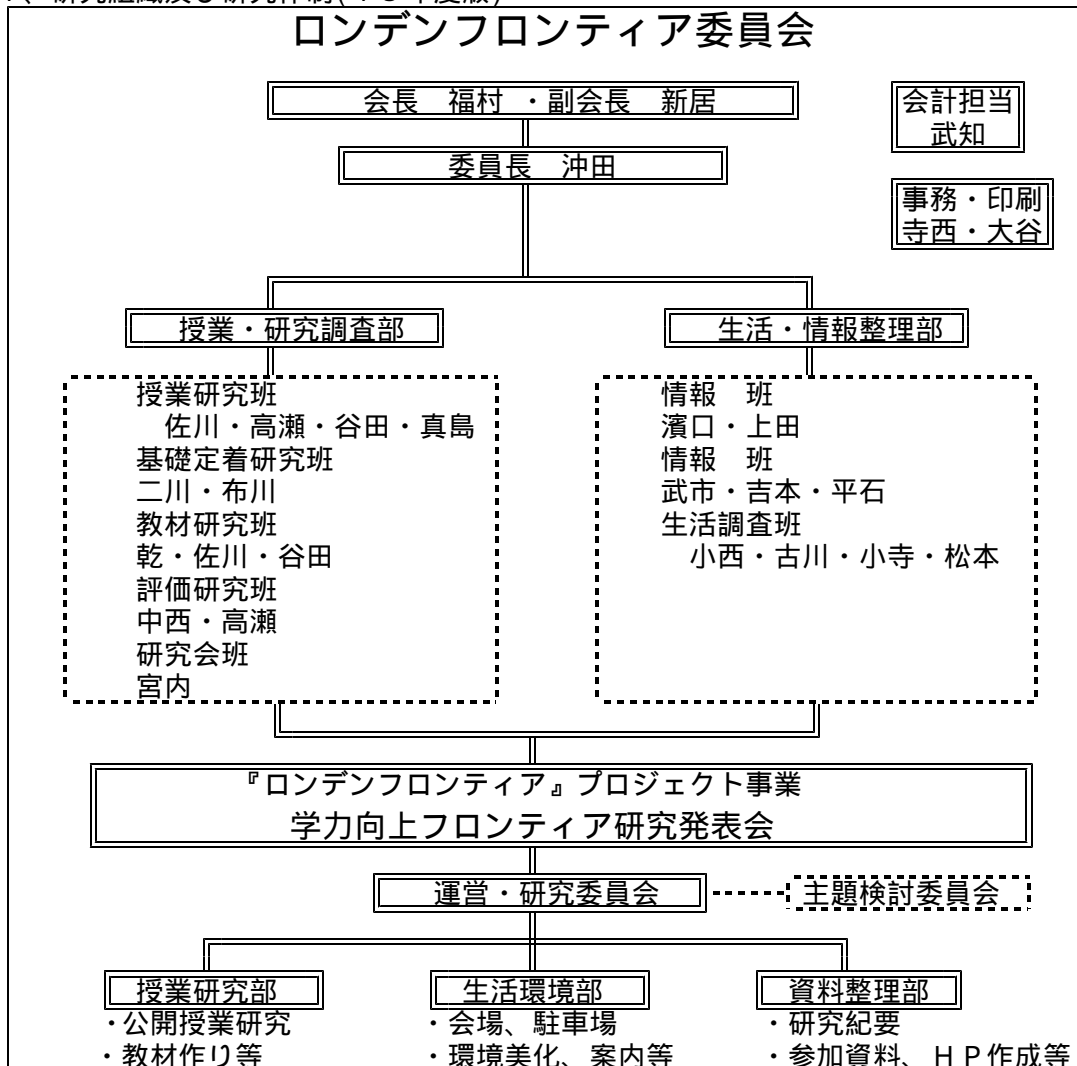
平成 15 年度	<p>テーマ 児童一人一人の学力向上をめざす学習プランの確立 研究の仮説 14年度の研究の基礎となる取り組みで浮かび上がった課題について研究を深めテーマに迫る具体的な学習プランが確立できるのではないかと考えた。</p> <p>研究の内容・方法（別紙詳細記載） HPや「ろんでん通信」定期発行によるフロンティア研究の情報公開 朝の学習「フロンティアタイム」による基礎学習の実践 教科担任制・課題別選択学習の研究及び実践 ティームティーチング及び少人数指導のマニュアル研究 習熟度別学習の研究及び実践 学期毎のフロンティアテストと全学年標準学力検査（2年次）の実施及び考察 評価規準・判断基準の見直し等評価研究 「学力向上フロンティアスクール指定校研究発表会」2003/11/20（本校） に向けての授業研究会等研究実践</p>
----------------	--

平成 16 年度	<p>テーマ（予定） 学び方を身につけ、基礎的・基本的な内容を活用できる児童をめざして 研究の仮説 2年間の研究実践を通して、児童一人一人に少しずつではあるが学習意欲の高まりや学力の向上が見られるようになってきた。しかし、課題も山積みしている。今後さらにこれまでに身につけた基礎・基本を生かし、主体的に学習できる児童を育成することがこれからの世の中を生きていく上で大切であると考えている</p> <p>研究の内容・方法 HPや「ろんでん通信」定期発行によるフロンティア研究の情報公開 フロンティアタイムにおける基礎学習の実践 ティームティーチング及び少人数指導の効果的なあり方の研究 課題別学習及び習熟度別学習の研究実践（算数科） 基礎・基本的な内容を定着させるための教材開発（国語科） 3期全学年標準学力検査の実施及び3ヶ年の考察 評価規準・判断基準の見直し等評価研究 研究のまとめ（3ヶ年）</p>
----------------	---

(3) 研究推進体制

『ロンデンフロンティア』研究組織・研究体制及び研究内容・研究計画

1、研究組織及び研究体制(15年度版)



各部会の業務内容

- 授業・研究調査部・・・
- 少人数指導・TT指導・専科学習の授業研究
  - 朝の学習(加演タイム)の研究、学力テストの分析と追跡調査
  - 課題選択学習、習熟度別学習に向けての教材研究
  - 学期ごとの学力を評価する問題作り(フロンティアテスト)
  - 授業研究会の提案・企画運営

- 生活・情報整理部・・・
- フロンティアのHPの作成、フロンティア通信の発行
  - インターネット等の情報収集、資料の整理
  - 児童の生活アンケート等調査研究、結果考察
  - 学校生活見直しプラン作り

各委員会の運営組織

- メイン委員会・・・会長が召集し、委員長の司会進行で全教職員で協議を行う。毎学期2回の開催とする。
- 企画委員会・・・委員長が召集し、委員長及び各部会の部長で開催する。内容は、各部会からの提案及び業務報告とする。毎月第1月曜日の開催とする。
- 小委員会(各部会)各部長が召集し、各部のメンバーで開催する。

内容は、現状把握・提案等とする。  
開催日については明記しないが、必要に応じて行うこととする。

## 2、研究内容及び研究計画

### 朝の学習の見直し及び実践研究

14年度の朝の学習（フロンティア）の反省から、各学年の学習スタイルの見直しについて研究を深める。意欲的に取り組む教材の開発及び自己評価等、児童自ら取り組むことができる学習の定着を図る。

### 習熟度別学習・課題選択別学習の研究及び実践

基本的に、3～6年の算数で習熟度学習及び、課題選択別学習を取り入れる。具体的なプランとしては、少人数及びTT学習の中で、1学級を2つのコ-スに分け、2名の指導者で実践する。ただ、年間を通して同じように行うのではなく、単元によって指導体制を工夫し柔軟に取り組む。

### 教科担任制・TT指導及び少人数指導における指導マニュアルの確立

教科担任制・・・5年生、音楽・書写・家庭科・図工

6年生、音楽・書写・社会・理科

形態については、専科入り込みならびに担任間の交換で行う。

TT指導・・・5,6年生、算数 2年生、算数・生活・図工・音楽

形態については、TT担当教員2名が、それぞれの学年に入り、指導を行う。

少人数指導・・・3,4年生、算数（5,6年も2学期より適宜取り入れ）

形態については、3,4年生各学級を2つのコ-スに分けて担任及び少人数担当教員で指導を行う。

### 全学年標準学力検査（2年次）の実施

1年次の標準学力検査結果、学習指導の方法についての研究

2年次の標準学力検査の実施（平成16年2月10日実施）

### 評価規準・判断基準の見直し検討委員会

フロンティア部会（研究・調査部）主催の評価規準等作成委員会での検討

評価規準等作成委員会・・・毎月1回開催（夏季休業日まで）

### 文部科学省・徳島県学力向上フロンティア事業

平成15年度学力向上フロンティアスクール研究発表会（徳島・名東地区）

研究テ-マ・・・『わかる授業』で確かな学力の向上をめざして

～児童一人一人の学力の向上をめざす学習プランの確立～

期日・・・平成15年度11月20日（木）

### 公開授業

1年TT学習、2年TT学習、4年少人数学習、6年TT学習、障害児学級個別学習分科会（授業研究会）及び全体会を開催

## 平成15年度の研究成果及び今後の課題

### 1. 研究成果

#### 平成15年度の本校の取り組みについて

成果	<p>今年度のテ-マ「児童一人一人の学力向上をめざす学習プランの確立」の実現をめざして取り組んできた。</p> <p><b>子どもたちの学習意欲は高まってきたか。</b></p> <p>算数科をメインに低学年ではティ-ムティ-チング、中学年では単純分割の少人数学習から習熟度別学習への発展、高学年では、ティ-ムティ-チングから少人数の習熟度別学習への発展と研究テ-マに迫る授業実践を行ってきた。</p> <p>各学年の実践からもについては、児童の学習に対する構えは積極性が増してきていることが伺える。また、それぞれの指導形態の特性を生かした個に応じた指導や望ましい習熟度別学習の研究については、子どもたちのアンケート結果から『これまでよりもわかりやすい授業になっている』との声が多く、児童の学習に対する意欲が高まってきていることが伺える。</p>
----	---

成果	<p><b>子どもたちの学力は向上したか。</b>  <b>授業力向上について</b>  教師の授業力向上のために、各種研修会への参加や県内外の算数指導者を招聘しての年間8回に及ぶ授業研究会等の実施した。教材や授業構成の研究、また、教師一人一人の授業評価（見直し）によって、望ましい授業力改善に向けての取り組みを継続し、徐々にではあるが成果をあげてきている。</p> <p><b>子どもたちの学力評価について</b>  平成14年度末の標準学力検査の結果を考察し、本校は学年毎の基礎学力調査（フロンティアテスト）や学習前のレディネステスト、単元終了時の総括テスト等、様々な評価を行い、それを生かすようにしてきた。朝のフロンティアタイムのチェックテストからは、個々の実態に応じた主体的な学習に発展してきている様子が伺え、特に計算力については格段に向上してきている。また、ティームティミングや習熟度別学習に対する保護者のアンケート結果からも、本校の学力向上に向けた取り組みに対して満足している様子が伺え、理解を示してくれていることが分かった。</p>
----	---

## 2. 今後の課題

課題	<p>研究は緒についたばかりでまだまだ、多くの課題が山積している。</p> <p><b>授業における評価方法の工夫や判断基準の見直し</b>  ティームティミングや少人数指導の特性を生かしたそれぞれの単元における望ましい指導について  補充・習熟・発展学習のための教材開発  等が大きな課題になっている。</p> <p>「わかる授業」での学力向上が本校のフロンティアの最大のテーマから、上のような項目を授業実践や評価の場面に適切に位置づけながら各学年児童の個人差や発達段階に応じた研究が必要だと考える。</p>
----	---

### 学力等把握のための学校としての取り組み

<p>フロンティアテスト 全学年 每学期1回実施 領域「数と計算」  ・朝の学習（フロンティアタイム）の習熟度（達成度）を評価する。</p> <p>標準学力検査 全学年 3学期2月実施  14年度算数  15年度低学年国語・算数 中、高学年国語・社会・算数・理科</p> <p>・本校児童の学力実態調査を行い、課題を把握し、その解決方法を考える。</p> <p>その他  ・習熟度別学習におけるレディネステスト、総括テスト  ・ノート、ワークシートからの評価  ・アンケート実施による児童・保護者の意識調査等</p>
--

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

1, 研究会の実施について	
研究会名	徳島県基礎学力定着化プロジェクト事業 / 学力向上フロンティア事業 学力向上フロンティアスクール指定校研究発表会 - - 徳島・名東地区 - -
日時	平成15年11月20日(木)
場所	徳島市論田小学校(本校)
対象	県下フロンティアスクール指定校、徳島市小学校教育研究会算数部会
研究会の概要	
・授業公開 (算数科)	1年ティ・ムティ・チング 2年ティ・ムティ・チング 4年少人数習熟度別学習 6年少人数習熟度別学習 障害児学級個別学習
・授業研究会	5部会に分かれての実施
・全体会	主として論田小学校の研究発表
2, 普及活動について	
ロンデンフロンティアHP作成	URL <a href="http://tgn3.tcn.ne.jp/ronden">http://tgn3.tcn.ne.jp/ronden</a>
・フロンティア活動の様子や「フロンティア通信」により、地域や保護者への	

啓発活動を行っている。
研究紀要作成
・15年度の研究内容及び研究実践等や発表会の資料を67Pの冊子にしてみました。
今後の予定
・HP等を通じて、本校の取り組みを評価していただき、県内外の学校等と交流を図りたい。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

- 【新規校・継続校】       15年度からの新規校      ■ 14年度からの継続校
- 【学校規模】               6学級以下                       7～12学級  
                                 ■ 13～18学級                       19～24学級  
                                  25学級以上
- 【指導体制】              ■ 少人数指導                      ■ T・Tによる指導  
                                 ■ 一部教科担任制                   その他
- 【研究教科】              ■ 国語                       社会                      ■ 算数                       理科  
                                  生活                       音楽                       図画工作  家庭  
                                  体育                       その他
- 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】      ■ 有                       無